

沖縄県におけるがんの罹患状況 -2017年診断症例-

がん（悪性新生物）は死因の第1位

日本人の約2人に1人が、がん（悪性新生物。以下「がん」とします。）にかかり、生涯がんで死亡する確率は、男性が4人に1人、女性が6人に1人とされています。

2017年沖縄県において、がんは、死因の第1位であり、死亡数は3,034件となっています。

がん罹患数^{※1}の状況

2017年に、本県では、男性延べ4,610件、女性延べ3,757件、合計8,367件のがんが新たに診断されました。男性では、大腸がん、前立腺がん、肺がん、胃がんの順に、女性では、乳房がん、大腸がん、子宮がん、肺がんの順に多くなっています（図1）。

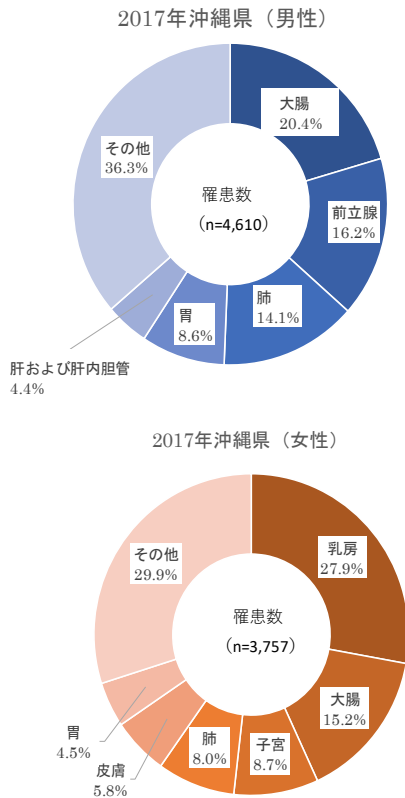


図1. 罹患数の（原発）部位割合（%）（上皮内がんを除く。）

全国比較と年次推移

がんの（原発）部位を年齢調整罹患率^{※2}でみると男性の上位5部位の内、大腸がんが、女性は上位6部位の内、乳房がんおよび子宮がんが、全国と比べ本県の方が高値となっています（図2）。

また、沖縄県の過去10年間（2008～2017年）の年次推移を年齢調整罹患率でみると、男性は、大腸がんおよび前立腺がんが、女性は、乳房がんが目立って増加傾向となっています（図3）。

※1 がん罹患数

一定期間に新たに診断されたがんの数。がんの患者の人数ではありません。

※2 年齢調整罹患率

基準となる年齢構成を用いて、人口10万人に対する罹患率を算出した値。人口の年齢構成が異なる全国との比較や、年間の変化を観察する場合に使用します。

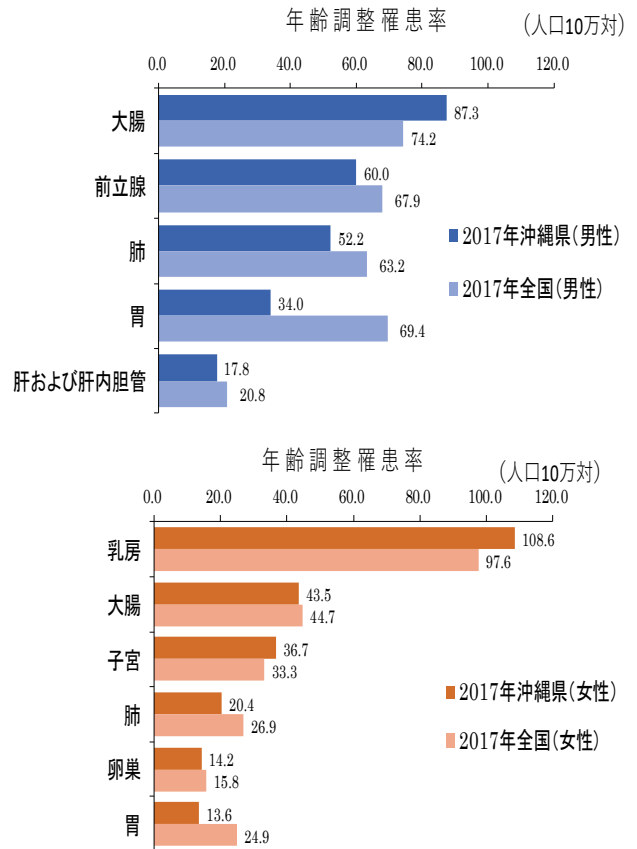


図2. 部位別年齢調整罹患率（人口10万対。上皮内がんを除く。）

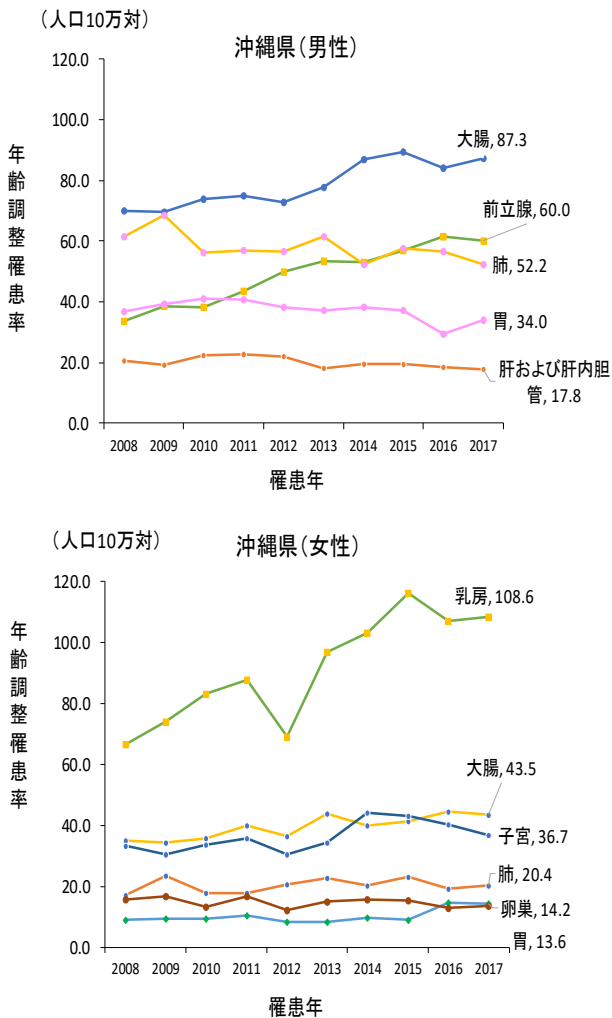


図 3. 年齢調整罹患率の年次推移（人口 10 万対。上皮内がんを除く。）

がんにかかりやすい年齢は？

がんの全部位（全てのがん）について、年齢階級別罹患率^{※3}をみると、一般的に、40 歳頃から高齢になるに従って値は高くなり、男性の方が女性よりも高くなっています（図 4）。

※3 年齢階級別罹患率

各年齢階級の罹患数を各人口で割って、人口 10 万人あたりの罹患率を算出した値。一般的に、年齢を 5 歳単位に区切り、年齢層間の違いを見る場合に使用します。

※4 「日本人のためのがん予防法」

出典：国立がん研究センターによる「科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究」HP

※図 1～図 4 に係るデータ

出典：「令和 2 年度沖縄県がん登録事業報告（平成 29 年(2017 年)の罹患集計）」

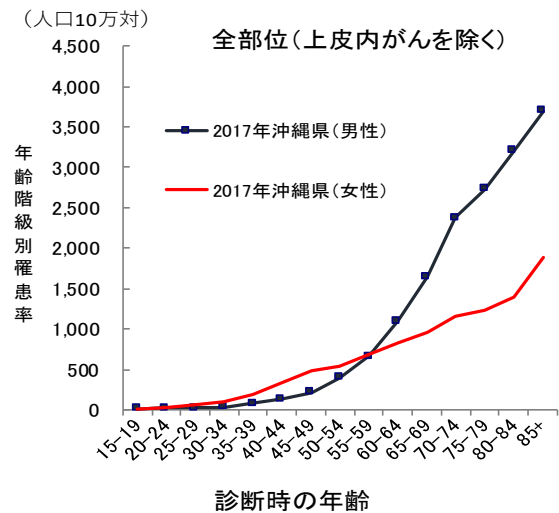


図 4. 年齢階級別罹患率（人口 10 万対。全部位。上皮内がんを除く。）

がんにかからないための予防法は？

年齢を重ねるにつれ、がんにかかる可能性は高くなります。がん「絶対にかからない」方法はありませんが、がんのリスク要因と予防法は、多くの研究から分かってきました。

がんにかかるリスク要因には、日々の生活習慣（喫煙、飲酒、食事、身体活動、体形等）、感染がありますが、がんを発症する要因は一つとはいえ、また環境にも深い関わりがみられます。

ウイルスや細菌による感染が原因の一つとして考えられる例に、肝がん（B 型・C 型肝炎ウイルス）、子宮頸部がん（ヒトパピローマウイルス）、胃がん（ヘリコバクター・ピロリ菌）があります。

国立がん研究センター研究グループは、科学的根拠に基づくがん予防ガイドライン「日本人のためのがん予防法」^{※4}を公表し、5 項目の健康習慣

（①禁煙する、他人のたばこの煙を避ける、②節酒する、③食事は偏らずバランスよくとる、④日常生活を活動的に過ごす、⑤太りすぎない、やせすぎない適正体重を維持する）の実践を提唱しています。

併せて、定期的ながん検診を受診し、早期発見、治療することは、がん予防に取り組む上で、とても重要です。

【企画管理班】